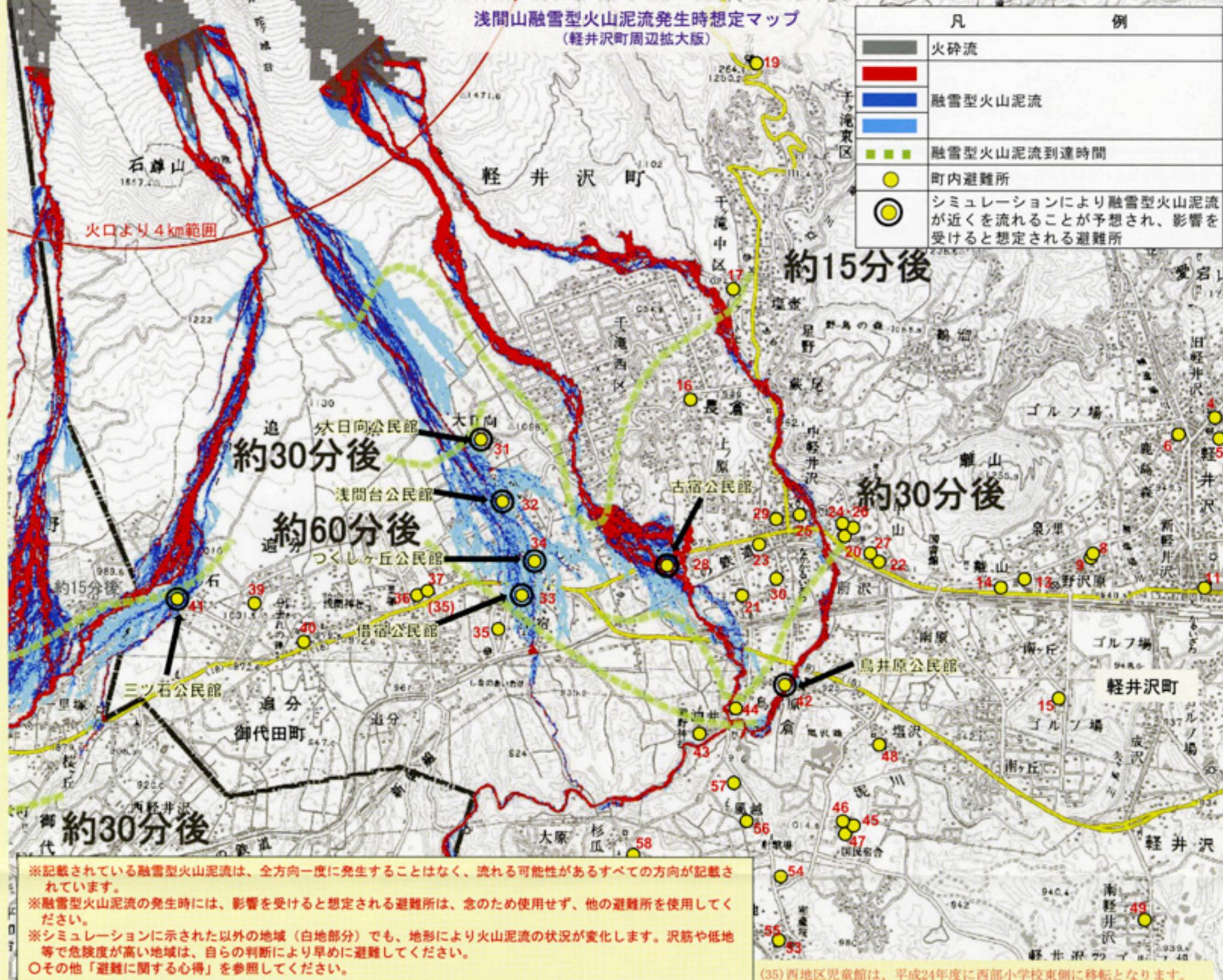


浅間山融雪型火山泥流発生時想定マップ
(軽井沢町周辺拡大版)

| 凡 | 例 |
|---|--|
| | 火砕流 |
| | 融雪型火山泥流 |
| | 融雪型火山泥流到達時間 |
| | 町内避難所 |
| | シミュレーションにより融雪型火山泥流が近くを流れることが予想され、影響を受けると想定される避難所 |



※記載されている融雪型火山泥流は、全方向一度に発生することではなく、流れる可能性があるすべての方向が記載されています。
 ※融雪型火山泥流の発生時には、影響を受けると想定される避難所は、念のため使用せず、他の避難所を使用してください。
 ※シミュレーションに示された以外の地域（白地部分）でも、地形により火山泥流の状況が変化します。沢筋や低地等で危険度が高い地域は、自らの判断により早めに避難してください。
 ○その他「避難に関する心得」を参照してください。

(35) 西地区児童館は、平成24年度に西部小学校東側に移転となります。

※融雪型火山泥流に影響する範囲を拡大して表示してあります。よってすべての避難所は掲載されておりませんのであらかじめご了承ください。

| 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 | 番号 | 施設名 |
|----|----------|----|-----------|----|-----------|----|--------------|----|---------------------|
| 1 | レクの森避難小屋 | 13 | 軽井沢高校 | 25 | 中軽井沢児童館 | 37 | 軽井沢西保育園 | 48 | 塩沢公民館 |
| 2 | 小瀬避難小屋 | 14 | 麓山公民館 | 26 | 老人福祉センター | 38 | 茂沢公民館 | 49 | 南軽井沢公民館 |
| 3 | 見晴台避難小屋 | 15 | 南ヶ丘公民館 | 27 | 軽井沢町社会体育館 | 39 | 軽井沢町第二運動場 | 50 | 馬取公民館 |
| 4 | 軽井沢観光会館 | 16 | 千ヶ滝西区公民館 | 28 | 古宿公民館 | 40 | 追分公民館 | 51 | 軽井沢72ゴルフ |
| 5 | 旧軽井沢公民館 | 17 | 千ヶ滝中区公民館 | 29 | 中軽井沢区民会館 | 41 | 三ツ石公民館 | 52 | 上発地公民館 |
| 6 | 旧軽井沢駐車場 | 18 | 峰の茶屋避難小屋 | 30 | 中軽井沢南児童館 | 42 | 鳥井原公民館 | 53 | 発地公民館 |
| 7 | 三笠避難小屋 | 19 | 万山望避難小屋 | 31 | 大日向公民館 | 43 | 油井公民館 | 54 | 軽井沢南保育園 |
| 8 | 軽井沢東部小学校 | 20 | 軽井沢町役場 | 32 | 浅間台公民館 | 44 | 長倉地区児童館 | 55 | 南地区児童館 |
| 9 | 東地区児童館 | 21 | 軽井沢中部小学校 | 33 | 借宿公民館 | 45 | 軽井沢風越公園アリーナ | 56 | 風越公民館 |
| 10 | 軽井沢東保育園 | 22 | 軽井沢中学校 | 34 | つくしヶ丘公民館 | 46 | 軽井沢勤労者体育センター | 57 | 佐久浅間農協軽井沢支所野菜出荷センター |
| 11 | 矢ヶ崎公園管理棟 | 23 | 軽井沢中保育園 | 35 | 西地区児童館 | 47 | スカップ軽井沢 | 58 | 杉瓜公民館 |
| 12 | 成沢公民館 | 24 | 軽井沢町中央公民館 | 36 | 軽井沢西部小学校 | | | | |

【融雪泥流マップ数値シミュレーション計算条件】
 ●噴火の火砕流想定量27万m³
 (1958年11月10日噴火規模。明治以降最大規模)
 ●山腹積雪50cm (平年規模の積雪量)
 ●火口から4方向に流下した計算結果を重ね合わせた図であり、全方向に流れるとは限りません。

《避難のときの持ち出し品》
 ~すぐに持ち出せるよう準備しておきましょう~
 ヘルメット、マスク、ゴーグル、衣類、水・非常食、常備薬、雨具・防寒具類、携帯ラジオ、現金・貴重品、通帳・印鑑・カード、毛布・タオル、電池・ライター、乳児用品、介護用品、救急用品、懐中電灯・ろうそく、その他

| | | ゾーン 床下浸水が想定される範囲 | ゾーン 木造家屋の損壊と床上浸水が想定される範囲 | ゾーン 木造家屋の半壊・全壊が想定される範囲 |
|------|-----------------|-------------------------|--|-----------------------------|
| 区分条件 | 家屋被害 | なし | 家屋損壊 | 家屋半壊・全壊 (建物は泥流の力に耐えられない) |
| | 浸水被害 | 床下浸水 | 床上浸水(家屋1階浸水) | 家屋2階浸水 |
| | 歩行避難への影響 | 歩行可能 | 歩行困難 | 歩行困難 |
| 避難行動 | 泥流が到達する前 | 高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する | 高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する | 高台等高所に避難する |
| | 泥流が到達してしまっている場合 | 高台等高所または丈夫な建物の2階以上に避難する | 建物の2階以上に避難する (泥流が家を突き破って家の中に侵入してくる可能性があるため、泥流の反対側に避難する) | |

融雪型火山泥流避難に関する心得

- 沢筋や低地等危険度が大きい地域では、**早めに避難する。**(自らの判断に基づく**自主避難**)
- 危険箇所を通らず泥流の流れに直角に近くの高台等高所に避難をする。
- 近くに高台等高所がない場合は、泥流の力に耐えうる丈夫な建物に避難する。
- 屋外に泥流が到達している場合又は直ぐそばまで迫っている場合は、屋外には出ず**建物の2階以上に避難する。**



浅間山融雪型火山泥流

噴火警戒レベル4～5(融雪型火山泥流)

融雪型火山泥流とは……

浅間山の噴火により火口から噴出した高温の岩塊や火山灰、軽石などが高温のガスと混合し、それらが一体となり地表を流れる現象を「火砕流」といいます。

浅間山が冬期間、山頂付近で雪が積もっている時期に中規模の噴火をし、火砕流が発生した場合、この火砕流により雪が解け、土砂や火山灰と一緒に、斜面を高速で流れ下る現象を『融雪型火山泥流』といい、その時速は、60kmにも達すると言われ、発生してから15分で別荘地や住宅地に到達するものとシミュレーションでは示されています。

浅間山では、過去の噴火においても規模の小さな融雪型火山泥流が発生しており、今後も大規模な融雪型火山泥流が発生する恐れがあるとして、国の関係機関や当町を含む周辺自治体でつくる浅間山火山防災対策連絡会議において、ハザードマップが発表となりました。

東日本大震災においては、千年に1度の規模といわれる未曾有の災害が発生し、活火山「浅間山」の麓に暮らす私たちは、噴火に対して注意を払う必要があります。

このマップにより融雪型火山泥流のことを知っていただき、浅間山の情報は、常に注意するよう日頃より心がけてください。

★★★平成23年12月10日現在の浅間山の噴火警戒レベル★★★

最も平穏な『レベル1』です！

火砕流イメージ図



(積雪期) 融雪型火山泥流イメージ図



浅間山中規模噴火



1958年12月14日

融雪型火山泥流



1926年5月十勝岳
中央防災会議資料(上富良野町提供)

浅間山融雪型火山泥流到達過去事例



1973年 融雪泥流
火口から約2kmに到達



1982年 融雪泥流
火口から約3.5kmに到達

浅間山の噴火警戒レベル表

| 予報 警報 | 対象範囲 | レベル (キーワード) | 火山活動の状況 | 住民等の行動及び登山者・入山者等への対応 | 想定される現象等 |
|----------------|-------------------|----------------|---|---|--|
| 噴火 警報 | 居住地域及び それより火口側 | 5 (避難) | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。 | 危険な居住地域からの避難等が必要。 | ●天仁天明クラスの噴火発生、火砕流等が居住地域に到達 ●積雪期に中噴火に伴う火砕流が発生し、融雪型火山泥流が居住地域に到達、または到達すると考えられる |
| | | 4 (避難準備) | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。 | 警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。 | ●中噴火が断続的に発生し、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される ●噴火継続中の有感地震発生や顕著な地殻変動等により、天仁天明クラスの噴火の発生が予想される ●積雪期に中噴火が発生し、居住地域に影響する融雪型火山泥流を誘発する火砕流発生の可能性ある |
| 火口 周辺 警報 | 火口から居住 地域近くまで | 3 (入山規制) | 居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。 | 住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。 | ●山頂火口から中噴火が発生し、4km以内に噴石や火砕流が到達 ●中噴火が切迫している |
| | 火口周辺 | 2 (火口周辺規制) | 火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。 | 住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。 | ●山頂火口から小噴火が発生し、2km以内に噴石や火砕流が到達 ●小噴火の発生が予想される |
| 噴火 予報 | 火口内等 | 1 (平常) | 火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。 | 状況に応じて火口内への立入規制等。 | ●火山活動は静穏、状況により山頂火口から500m以内に影響する程度の噴出の可能性あり |

このマップに関するお問い合わせ先

軽井沢町消防課防災係 電話:0267-45-1880

火山の異常をみつけたときの連絡先

気象庁浅間山火山防災連絡事務所 電話:0267-45-2167

気象庁火山監視・情報センター 電話:03-3211-7952

発行 浅間山火山防災対策連絡会議、軽井沢町

写真提供 気象庁

資料提供 浅間山ハザードマップ検討委員会

協力 国土交通省利根川水系砂防事務所、群馬県、長野県

この地図は、国土地理院長の了承を得て、同院発行の数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 H23情複 第210号)